



報道関係各位

2013年8月20日
ゾエティス・ジャパン株式会社

ゾエティス社 2013年第2四半期業績の報告

■この資料について

この資料は米国ゾエティス社が2013年8月6日（米国現地時間）に発表したプレスリリースを日本語に翻訳再編集し、皆さまのご参考に供するものです。正式言語は英語であり、その内容及び解釈については英語が優先します。

尚、詳細な記述は下記サイトから原文をご参照ください。

<http://news.zoetis.com/press-release/corporate/zoetis-reports-second-quarter-2013-results>

<報道関係の皆さまからのお問い合わせ先>

ゾエティス・ジャパン株式会社 野川真義

TEL : 03-5309-7258/ FAX : 03-5309-9914

E-mail : motoyoshi.nogawa@zoetis.com

報道問い合わせ先:

Bill Price

1-973-443-2742 (o)

william.price@zoetis.com

投資家対応先:

Dina Fede

1-973-443-2969 (o)

Elinore White

1-973-443-2835 (o)

elinore.y.white@zoetis.com

John O'Connor

1-973-822-7088 (o)

ゾエティス社 2013 年第 2 四半期業績の報告

- ・ 2013 年第 2 四半期の売上高は、前年同期比 2%増の 11 億 1,000 万ドルであった。
- ・ 2013 年第 2 四半期の報告値ベース純利益は、前年同期比 26%減の 1 億 2,800 万ドル、希薄化後 1 株当たり利益は 0.26 ドルであった。
- ・ 2013 年第 2 四半期の調整後純利益は 1 億 7,800 万ドル、調整・希薄化後 1 株当たり利益¹は 0.36 ドルで、前年同期比でそれぞれ 1%増ならびに 3%増であった。
- ・ 2013 年通年の調整・希薄化後 1 株当たり利益¹ガイダンスを 1.36~1.42 ドルと再確認する。

2013 年 8 月 6 日、ニュージャージー州フローハムパーク発 — ファイザー社の一事業部門であったゾエティス社 (NYSE : ZTS) は本日、2013 年第 2 四半期決算を発表した。当社は第 2 四半期決算の売上高が前年同期比 2%増の 11 億 1,000 万ドルであったと発表した。売上高は為替によるマイナスの影響が 2% (為替の影響を除く) あり、実質ベース²で 4%増加した。

2013 年第 2 四半期の純利益は前年同期比 26%減の 1 億 2,800 万ドル、希薄化後 1 株当たり利益は 0.26 ドルであった。2013 年第 2 四半期の調整後純利益¹は 1 億 7,800 万ドル、調整・希薄化後 1 株当たり利益は 0.36 ドルであり、前年同期比でそれぞれ 1%増ならびに 3%増であった。2013 年第 2 四半期の調整後純利益¹は、パーチェス法による会計処理調整、買収関連費用および一部の重要項目による正味の影響 5,000 万ドル (希薄化後 1 株当たり利益 0.1 ドル) を除外している。

経営陣からのコメント

「第 2 四半に当社はファイザー社からの独立を果たし、また米国でアレルギー性皮膚炎治療薬 APOQUEL の承認を得るなどの製品イノベーションを引き続き実現して、好調な業績を上げることができました。」とゾエティス社最高経営責任者 (CEO) ホアン・ラモン・アレクスは述べた。そして「現在も続く気候に関連する課題や経済情勢にもかかわらず、当社の世界的規模、各地域における拠点での活動、そして多様なポートフォリオが売上高ならびに調整後利益の伸長を実現させる一助となりました。」と述べた。

「今四半期ならびに上半期の業績はともに、わが社の社員の献身的な姿勢とその才能、そして当社の事業モデルの強固さを示しています。」とアレクスは述べている。そして「将来に向けて、当社は画期的な動物用医薬品とワクチンに対する顧客のニーズに対応して、新会社が

完全に独り立ちするために必要な我々の能力には引き続き自信を持っています。」と述べた。

「今四半期は、当社のインフラ構築に大きな進展が得られました。2013 年上半期の業績は、私にとって満足できるものであり、また 2013 年通年の当社見通しを再確認致しました。」とゾエティス社上級副社長兼最高財務責任者リック・パソフは述べている。

四半期ハイライト

ゾエティス社は、その事業を米国 (U.S)、欧州/アフリカ/中東 (EuAfME)、カナダ/ラテンアメリカ (CLAR) およびアジア/太平洋 (APAC) の 4 地域の事業区分に分割して組織し、運営している。当社は上記の各地域において、地域動向と顧客のニーズに合わせて、畜産・コンパニオンアニマル向けの多様な製品ポートフォリオを提供している。

2013 年第 2 四半期において：

- ・米国の売上高は、前年同期比 4%増の 4 億 3,700 万ドルであった。畜産向け製品の売上高が増加した要因として、牛、豚、鶏があげられる。小動物向け製品の売上高の増加がコンパニオンアニマル製品の収益を伸長させたものの、馬向け製品市場の長引く低迷によりその一部が相殺された。

- ・欧州/アフリカ/中東の売上高は、実質ベースで前年同期比 1%増の 2 億 7,800 万ドルであった。コンパニオンアニマル製品の売上高には、第三者製造契約に関連する売上の伸長が寄与した。当該売上を除くコンパニオンアニマル製品の売上高は、概ね横ばいであった。畜産向け製品の売上高は、寒冷に見舞われた欧州の気候とその全般的な景気後退に伴う牛向け製品の売上低迷を主因として減少したが、豚・鶏向け製品の売上高の増加によって一部埋め合わされた。

- ・カナダ/ラテンアメリカの売上高は、実質ベースで同 4%増の 2 億 1,300 万ドルであった。今四半期のコンパニオンアニマル製品の売上高は、ブラジルとメキシコを中心とする需要の増加とマーケティングプログラムを主因として増加したものの、カナダの売上の低迷により一部が相殺された。主に鶏、豚向け製品が畜産向け製品の売上高を押し上げた。一方、牛向け製品の売上高は減少した。

- ・アジア/太平洋の売上高は、実質ベースで前年同期比 7%増の 1 億 8,600 万ドルであった。新製品を継続的な導入がコンパニオンアニマル製品の売上高にプラスの影響を与えた。家畜向け製品の伸長は、主に豚向け製品と一連の新ワクチンの発売によって牽引された。一方、オーストラリアの牛向け製品の販売は、引き続き干ばつによる打撃を受けた。

ゾエティス社は、ブランドライフサイクルマネジメント、強力な顧客との関係、ならびに

新たな市場と技術を活用して、引き続き需要を喚起し、多様な製品ポートフォリオを強化している。当社は広範かつ多様な製品ポートフォリオを備えており、既存の製品ラインの効能の改良ならびにその製品供給先の拡充；すなわち各動物種における製品の適応症の拡大、新たな販売地域における承認の取得に力を注いでいる。最近のハイライトの一部を紹介する。

- APOQUEL[®]、新たなJAK-1 阻害剤として初の承認を取得 - 5月16日、米国FDAは、月齢12ヵ月以上の犬のアレルギー性皮膚炎に伴う掻痒症の抑制用およびアトピー性皮膚炎の抑制のために、APOQUEL（オクラシチニブ錠剤）を承認した。掻痒症（かゆみ）は、犬のアレルギーにおける最も一般的な兆候である。ゾエティス社が開発したAPOQUELは、獣医療用として初めて承認されたヤヌスキナーゼ（JAK）阻害剤である。同剤は掻痒および炎症経路を標的とする製品であり、獣医師による提供が可能な標準的治療に大幅な改善をもたらす。APOQUELは痒みの緩和に即効性があり、米国内で短期および長期のアレルギー性皮膚疾患に罹患している犬820万頭（推定）の炎症を改善する。一方、欧州ではCVMP（獣医療用医薬品委員会）が、APOQUELに対する市場での販売許可の交付を提言する肯定的な意見を採択した。これは欧州委員会による承認プロセスにおける重要なステップとなる。また当社は、その他の市場でも引き続きAPOQUELの承認を得るべく努めている。
- 中国における合弁事業の進展 - 中国吉林省のゾエティス社合弁事業は、RUI LAN AN[™]に関する承認を取得した。このRUI LAN AN[™]は、高病原性ブタ繁殖・呼吸障害症候群（HP PRRS）に対し、新たな画期的治療法をもたらす製品である。本ワクチンは、中国におけるゾエティス社の事業にとって重要なマイルストーンである。このワクチンは、ゾエティス社の国際的専門知識と強力な現地ワクチン開発プログラムとを組み合わせ、世界最大の豚肉生産国である中国の養豚生産者のワクチン需要に対応するものである。この合弁事業は、中国内におけるアニマルヘルスワクチンの開発、製造および販売を目的として2011年に設立された。
- ブランドライフサイクルの管理 - ゾエティス社は、新規市場における新たな承認の取得ならびに既存製品の新たな製剤処方取得によって、医薬品およびワクチンの多様なポートフォリオの強化を続けている。例えばブタ用ワクチンFOSTERA[®] PCVは、今四半期においてブラジルと日本で新たに承認を取得した。PCV関連の疾患は、群単位での健康とその生産成績を悪化させて、結果として生産コストを非常に高めることに成るが、本製品はその抑制に寄与する。一方、鶏分野では、2010年にフランスで初めて承認されたPOULVAC[®] IB QXワクチンのドイツ市場での登録が最近認められた。本ワクチンは、ルーマニア、ブルガリア、南アフリカでも既に登録されている。新たな製剤処方の取得のケースとして、DRAXXIN[®]は2003年に欧州で初めて承認された家畜用抗菌剤だが、今四半期にはDRAXXIN[®] 25（ツラスロマイシン）注射剤が（ツラスロマイシンの）濃度を抑え、豚に対する適応性を高めて、米国で承認された。また7月には、BOVI-SHIELD GOLD ONE SHOT[™]も米国で承認を取得した。本製品は、

ある種の呼吸器系疾患を予防する牛用ワクチンであり、それにより、当社はつこの分野において競争力の高い併用医薬品を手に入れることとなった。

財務見通しおよびコメント

ゾエティス社の 2013 年通年の見通しは、ポートフォリオの多様性と事業モデルの強固さへの当社の自信と今年のアニマルヘルス製品の市場変化の状況に関する見解を反映している。

ゾエティス社は、売上高の見通しを 44 億 2,500 万ドル～45 億 2,500 万ドルに維持するなど、2013 年通年の財務見通しを再確認した。また当社は、通年の希薄化後 1 株当たり利益が報告価値ベースで 1.00 ドル～1.06 ドルに達すると予想している。これには、主に独立上場化に関連する 2 億ドル～2 億 4,000 万ドルの臨時費用の影響が含まれている。通年の（パーチェス法による会計処理調整、買収関連費用と一部の重要項目を除く）調整・希薄化後 1 株当たり利益¹は、1.36 ドル～1.42 ドルの範囲と予想している。税率や支出などその他の項目に関する追加見通しについては、財務諸表に記載するとともに、当社の電話会議において論ずる。

ウェブキャスト&電話会議の詳細

ゾエティス社は、本日午前 8 時 30 分（東部夏時間）にウェブキャスト/電話会議を開催する。本会議では、当社幹部が第 2 四半期決算を報告し、2013 年財務見通しについて述べ、財務アナリストからの質問に答える。投資家と一般の方々には、当社ホームページ <http://www.zoetis.com/events-and-presentations> からライブウェブキャストにアクセスすることができる。ウェブキャストについてはアーカイブに保存し、2013 年 8 月 6 日から再生による閲覧が可能となる。

ゾエティス社について

ゾエティス社は、顧客やそのビジネスをサポートすることに注力している、最大手のアニマルヘルス企業である。ゾエティス社は、ファイザー社のアニマルヘルス部門としての 60 年に及ぶ歴史を有しており、家畜およびコンパニオンアニマルの双方に焦点を当てて、動物用ワクチンおよび医薬品を発見、開発、製造および販売している。わが社は、2012 年に 43 億ドルの年間収入を上げた。また 2013 年初めの時点で全世界に約 9,300 人の社員を擁しており、11 ケ国 29 ケ所の製造拠点を含め約 70 ケ国で事業を展開している。わが社の製品は、120 ケ国の獣医師、家畜生産者および家畜やコンパニオンアニマルを飼育する人々に提供されている。詳細については、www.zoetis.com をご参照下さい。

¹ 調整後純利益および調整・希薄化後 1 株当たり利益（非GAAPベースの財務指標）とは、ゾエティス社に帰属する報告ベースの純利益および希薄化後 1 株当たり利益（パーチェス法による会計処理調整、買収関連費用と一部の重要項目を除く）を指す。

² 実質ベースの売上高の伸びとは、為替の影響を除く売上高成長率を指す。

情報開示に関する注意事項

将来の見通しに関する記述: 本プレスリリースは、ゾエティス社の事業計画もしくは見通し、将来の業務上もしくは財務上の業績、およびその他の将来の事象に関する現時点における当社見解を反映した将来の見通しに関する記述を含んでいる。これらの記述は、将来の業績を保証するものではない。将来の見通しに関する記述は、リスクや不透明性による影響を受ける。これらの一つまたは複数のリスクもしくは不透明性が現実のものとなった場合、あるいは経営陣による基礎的前提が誤りであることが判明した場合、実際の業績は将来の見通しに関する記述に記載された内容と大きく異なるものとなりうる。将来の見通しに関する記述は、あくまで本文書の作成時点における記述である。ゾエティス社は、新たな情報、将来的な事象もしくはその他のいずれかの結果を問わず、将来の見通しに関する記述を更新または改訂する義務を明示的に放棄する。リスク、不透明要因およびその他の事項に関する詳細なリストおよび記述については、四半期報告書（書式10-Q）および最新報告書（書式8-K）に記載のセクション「Forward-Looking Information and Factors That May Affect Future Results（今後の業績に影響を与える将来の見通しに関する情報および要因）」およびセクション「Item 1A. Risk Factors（第1A項：リスク要因）」を含め、書式10-Kの2012年12月31日までの当社年次報告書を参照されたい。これらの報告書類およびその後の報告書類については、ホームページwww.sec.gov、www.zoetis.comからオンラインで参照するか、もしくはゾエティス社に要請して入手することができる。

非GAAPベースの財務指標の使用: 当社は、当社の業績および動向の査定および分析して、財務上および業務上の決定を下すために、調整後純利益および調整・希薄化後1株当たり利益などの非GAAPベースの財務指標を使用している。これらの非GAAPベースの財務指標は当社の業績に関する透明性を高めるものであり、したがって投資家にとっても有益であると考えられる。本プレスリリースに記載する非GAAPベースの財務指標は、GAAP基準で義務づけられる指標（純利益、営業利益および1株当たり利益など）に代わるものとみなしてはならず、また流動性の指標とみなしてはならない。これらの非GAAPベースの財務指標は、他社が提示する非GAAPベースの財務情報と同等のものではないと考えられる。非GAAPベースの財務指標およびGAAPに基づく財務指標の調整については、本プレスリリースに添付の表に記載し、www.zoetis.comに掲載する。

情報のオンライン掲載: 当社は、投資家にとって重要な意味を持つ可能性のある情報をwww.zoetis.comの当社ウェブサイトの「投資家」コーナー、<http://www.facebook.com/zoetis>の当社のFacebookページ、または@zoetisのTwitterで定期的に公表している。当社は、投資家および潜在的投資家らが、当社のウェブサイトを定期的に閲覧し、または、FacebookやTwitterでフォローし、当社に関する重要な情報を入手することを奨励している。